

令和5年11月1日（毎月1回1日）発行 昭和43年1月10日第3種郵便物認可

MICHISHIRUBE

みちしるべ

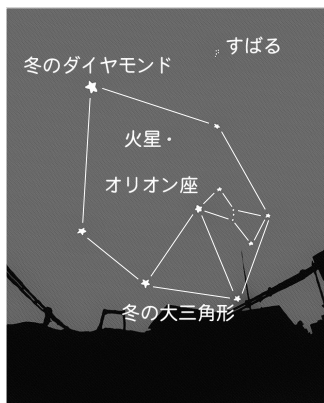
No.900

2023

11

November





表紙写真の説明 (写真には牡牛座も写っています)

Contents

夜空を見上げれば／菅原 真 3

もうお読みになりましたか？／長瀬喜之 4

著名人と聖書

第5回 ヨハンナ・シュピリ／古賀敬太 6

この意味教えて（カタカナ篇）

No.23 ガブリエル／広沢 規 10

天国の入場券／井上路加 12



☆当月号および過去1年分のみちしるべを、電子書籍版にてご覧頂けます。 <https://e-michishirube.com>

夜空を見上げれば



菅原 真

「神は牡牛座、オリオン座、すばる、それに南の天の間を造られた。」(ヨブ記9章9節)

ここ数年、癒しを求めて星空を鑑賞する人やカメラでそれを撮る人が増えているようで、私の住む地域にも県外から星を見るために訪れる人が多くなっているということを、地元 of 星空観賞に力を入れている宿泊施設の方から聞きました。

確かに田舎で街明かりの少ないこの地域では、少し車を走らせて郊外にいけば、はっきりと星空を見ることが出来ます。私も以前からよく夜空を鑑賞するのですが、夏には夏の大三角形や銀河の中心部分を含む天の川、そして11月中旬頃からは、牡牛座や

オリオン座、すばる(ブレアデス星団)とともに、この周辺の明るい星々を含めた冬のダイヤモンドや冬の大三角形などの星群を、日没後ほどない時間からとても綺麗に見ることが出来ます。(表紙写真)

これらを見てみると、人間の知恵や言葉では形容できないほどのスケールの大きさと、その調和の取れた美しさに圧倒されてしまいます。聖書に『私たちは神の中に生き、動き、存在している』のです。』(使徒の働き17章28節)と記されているとおり、これらすべてをお造りになった神様の偉大な力によって私たちは生かされているということを改めて痛感させられるのです。

この、創造主なる神様が私たちを生かしてくださっているという事実は、この方が愛なる方で、いつも私たちの傍に寄り添ってくださるとても身近な存在であることをも証しているのです。

ですから皆さんがこの方に救いを求めるならば、神様はそれに必ず応えてくださり、偉大な力によって様々な苦しみ、何よりも罪の苦しみから救い出してください。

もうお読みになりましたか？

長瀬喜之



「西郷どん」「八重の桜」「軍師官兵衛」

これらはかつてNHKで放送された大河ドラマのタイトルです。ご存じのように、これらのドラマはそれぞれ西郷隆盛（幕末、明治維新で活躍した武士）、新島八重（キリスト教精神に基づく同志社大学を創立した新島襄の妻）、黒田官兵衛（織田信長、豊臣秀吉に仕えた武将）の生涯を描いたものでした。

これらの主人公にはある共通点があります。それはみな聖書にふれ、いわゆるキリスト教の思想の影響を受け、洗礼まで受けたと言われていることです。戦国時代や幕末、明治維新という動乱の時代にあつて、人としてどのように生きるべきか、模索し真理

を求めていた彼らに、聖書はその答えを見出させてくれたのです。

今の時代にあつても、聖書は日本だけでなく、世界中で読まれている書物です。約千九百年前に完成してから、一度もその内容が書き換えられることなく、翻訳という作業により、二千以上の言語に訳され、世界中で読まれるようになりました。

いつの時代でも、どんな地域においても、聖書を読む人々に人生の本当の意味を教え、生きる希望と確信を与えてくれるものであるからこそ、聖書は読まれ続けているのです。

では聖書には何が書かれているのでしょうか？

「罪の報酬は死です。」（ローマ人への手紙 6章23節）

まず、聖書は私たちに「罪」と「死」について語ります。

聖書は私たちが、創造された神に背を向けて自分勝手な道を歩んでいることが神に対する「罪」であると語っています。そしてその報いとして「死」を経験し、神のさばきの前に立たなければならぬのです。

「死」は単なる肉体的な衰えによってもたらされるのではなく、最初の人であるアダムとエバが、神に対して「罪」を犯したために与えられたものです。それ以来、人類に罪がはいり、その結果すべての人が死ななければならなくなったのです。

しかし聖書は「罪」や「死」を教えるためだけではなく、私たちに救い主であるイエス・キリストを知

らせるために書かれました。

次の一節は聖書が書かれた、全体の目的をはっきりと表している言葉です。

「これらのこと（聖書）が書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるためであり、また信じて、イエスの名によつていのちを得るためである。」（ヨハネの福音書 20章31節）

イエス・キリストは、今から約二千年前、私たちの罪を負って十字架にかかってくださったのです。それは私たちの身代わりとなつて、罪に対する神のさばきを受けてくださったためでした。この方を救い主として信じるだけで、私たちは神のさばきから救われ、永遠のいのちを与えられるのです。

みなさんも聖書を手になつてお読みになつてみませんか。イエス・キリストとの出会いは、きっとあなたの人生に大きな影響を与えることとなるでしょう。

著名人と聖書（第5回）

古賀敬太

ヨハンナ・シュピリ（1827—1901）

アルプスの少女ハイジ―神との和解―

著者、ヨハンナ・シュピリについて

『アルプスの少女ハイジ』の著者ヨハンナ・シュピリ（1827—1901）は、スイスのチューリッヒの近郊ヒルツェルという村に、7人兄弟の4番目として生まれました。彼女の母親メタ・ホイサーはプロテスタントの宗教詩人で、シュピリは信仰的雰囲気の中で育てられました。母親が作詞した賛美歌「おイエス・キリスト、わがいのちよ、苦難

の中のなぐさめよ」は、今でもスイスの教会で歌われています。また『アルプスの少女ハイジ』には、聖書がよく引用されていますし、賛美歌も多く紹介されています。日本人がこの書物を読む時には、こうした信仰的な側面を軽視してしまうことが多いのですが、『アルプスの少女ハイジ』の趣旨を正しく理解するためには聖書を知ることが大事です。

シュピリは、57歳の時、夫と長男を同時に失うという悲劇を体験しています。彼女は、1901年74歳でチューリッヒで亡くなります。彼女の墓には、「主よ、今私は何を待ち望みましょう。私の望みそれはあなたです。」（詩篇39篇7節）という聖書の



ことが刻まれています。

孤児が主人公の文学作品

主人公のハイジは、孤児です。西洋の文学、特に女流作家の作品には孤児を主人公とするものが多くあります。『ジェーン・エア』『赤毛のアン』『あしながおじさん』『秘密の花園』がそうです。ハイジは孤児ですが、天真爛漫で、まわりの人々の心を豊かにする少女です。最初は母の姉であるおばさんが世話をしていましたが、その後アルプスのちいさな村のアルム（山の上の牧草地）で父方のおじいさんと一緒に、自然の花々や山羊に囲まれて生活するようになります。

クララのおばあさんから学んだこと

しかしハイジは、おばさんによってアルムからフランクフルトの裕福なゼーゼマン家に無理やり連れて行かれます。それは病弱で足が悪いクララという女の子の話し相手をするためでした。アルプスの自然から引き離されたハイジにとって、フランクフル

トでの生活は苦しいものでした。アルプスに帰りたいという思いが嵩じて、心身ともに病気になるります。しかしこの苦難の期間が、ハイジにとって貴重な時でした。この期間、ハイジはクララのおばあさんから神様に祈ることや信仰について学びます。そして時が来て、ハイジは晴れてアルプスのおじいさんの所に帰ることができました。

おじいさんの過去

ハイジがフランクフルトに行く前のおじいさんは、神や村の人々に対して心を閉ざしていました。おじいさんには、「過去」がありました。おじいさんは立派な農園を所有していましたが、放蕩に身を持ち崩して、財産を全部遊びやお酒に使い果たしてしまいました。それを見て、おじいさんの両親も心痛のあまり早死にしています。おじいさんは自分に悪い評判が立ったので、村を去り、行方不明になります。十数年してアルムに戻ってきます。そして息子のトビアスとその妻のアーデルハイト（ハイジの母）が不慮の事故でなくなると、おじいさん

の犯した罪に対する天罰だとうわさされます。それ以来、おじいさんは村の人々との交わりを一切断ちます。

村の牧師さんとおじいさんの会話

ある時、村の牧師さんがおじいさんを訪ねてきて、8歳になったハイジが学校に行つて、読み書きが学べるように、山を下りるよう勧めます。しかし、おじいさんは、村の人が自分を軽蔑していると思い、その要請をはねつけます。牧師さんは「下の人たちのあなたに対する軽蔑なんて、大したことはありません。信じてください。むしろ、神様と和解してください。あなたに必要な赦しを、神様に求めてください。」と語り、「おじいさん、どうか今手を差し出して、神様と人とも和解し、下に来て村で暮らす約束をしてください。」と懇願します。牧師さんが、おじいさんに村の人との仲直りを勧めるだけではなく、まず神との和解を勧めている所が大事なポイントです。神様から離れ、放蕩の人生を送ってきたおじいさんが、まず悔い改めて、神と和解することが

先決でした。神と和解すれば、人との和解の道も開けます。そして、神との和解は、人の罪を負って身代わりとして十字架にかけられたイエス・キリストを救い主として信じることによって実現します。しかしこの時のおじいさんには、聞く耳がありません。おじいさんの態度が変わるのは、ハイジがフランクフルトから帰ってからです。『アルプスの少女ハイジ』のクライマックスは、「日曜日、教会の鐘が鳴るとき」（第一部第14章）です。

ハイジとおじいさんの会話

おじいさんはハイジに対して、「一度、神様から離れてしまったら、誰も元にもどることはできない。神様に忘れられた者は、一生そのままなのだ。」と自分の運命を呪います。その時ハイジは、「えっ、そんなことはないよ、おじいさん。おばあさんからそのことも教わったのよ。」と言い、「放蕩息子の話」を聞かせてあげます。

放蕩息子の話は聖書のルカの福音書15章の中に記されています。お父さんに反逆し、相続財産をもら

って、家出して財産を湯水のように使ってしまった、食べるものにも困ってしまった放蕩息子とは、本心に立ち返り、悔い改めて、お父さんの家に帰ろうとします。放蕩息子が家に帰る途中に、父親は迎えに出て、抱擁し、指輪をはめさせ、最も良い着物を着させ、宴会を催して、息子が帰ってきたことを喜びます。ここでの父親は、神さまのことです。ハイジから放蕩息子の話を聞いたおじいさんは、まさに自分のことのように感動し、神様が自分をどんなに愛しておられるかを知り、悔い改めに導かれます。本では、「お



じいさんは両手を組み、こうべを垂れ、小さな声で祈りました。『父よ、わたしは天に対しても、あなたに対しても罪を犯しました。もうあなたの息子と呼ばれる資格はありません。』大きな涙がいくつか、おじいさんの頬を転がり落ちていきました。』と記されています。おじいさんの回心の瞬間です。そして二人は教会の礼拝に行き、村の人々に温かく迎えられるます。

聖書のことば

「私たちはキリストに代わって願います。神と和解させていただきなさい。神は、罪を知らない方（イエス・キリスト）を私たちのために罪とされました。それは、私たちがこの方にあつて神の義となるためです。」（コリント人への手紙第二・5章20、21節）

【参考文献】

ヨハンナ・シュビリ『アルプスの少女ハイジ』

（松永美穂訳、角川文庫、2021年）



この意味教えてーカタカナ篇ー

広沢 規^{のり}

No.23

●ガブリエル

岡山県倉敷市には有名な大原美術館があります。館内には、1590年頃、ギリシャ人エル・グレコによって描かれた「受胎告知」という聖画が所蔵されています。またイタリヤ人フラ・アンジェリコが描いた同名の聖画も有名です。

受胎告知とは、神に遣わされた御使い（天使）が、処女マリヤのところに来て、聖霊によって彼女の胎に神の子が宿ることを告げたこととします。

「見なさい。あなたは身でもって、男の子を産

みます。その名をイエスとつけなさい。その子は大いなる者となり、いと高き方の子と呼ばれます。」（ルカの福音書1章31、32節）

「聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおいます。それゆえ、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれます。」（同35節）

これらの御告げのとおり、マリヤは胎に神の子イエスを宿し、ベツレヘムという町で出産し、その名をイエスとつけました。



エル・グレコ作「受胎告知」

その時に、現れた御使いの名前がガブリエルです。ガブリエルは代表的な御使いであり、その名前には「使節」という意味があります。（欧米では男性の名前としてつけられることもあります。）使節とは、国家の代表として他国に派遣される人のことです。ガブリエルは、まさに天におられる神から派遣された使節として、ナザレという町にいたマリヤに、受胎の告知をしました。また、ガブリエルは旧約聖書の「ダニエル書」にも記されていて、預言者ダニエルに幻の解き明かしをしています。

聖書では、御使いは架空の存在ではなく、実在者として登場します。御使いは、霊の存在として、人間が造られる前から神と人間に仕える者として創造されました。天においては千々万々の御使いたちが神に仕えています。そして御使いたちは、イエス・キリストの生涯の要所要所に現れて、主イエスに仕えました。それらの箇所を紹介してみます。

まず主イエスが降誕（誕生）されたとき、御使いたちは羊の夜番をしていた羊飼いたちに現れ

て、こう告げました。

「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。」（同2章11節）

また主イエスが荒野で40日間、悪魔の誘惑を受けられたとき、御使いたちが近づいて来て主イエスに仕えました。十字架の死を目前にして、主イエスがゲッセマネの園で祈られたとき、御使いが天から現れて力づけました。主イエスを慕う婦人たちが、主が埋葬された墓に來たとき、御使いたちが現れて、主イエスの復活を告げました。

ところが、主イエスが十字架刑の苦しみを受けられ、御使いの助けを最も必要とされたとき、どうして御使いは現れなかったのでしょうか。それは、救い主はただ一人で、私たちの罪を負われ、神のさばきを受けられ、救いの御業を成し遂げなければならなかったからです。

皆さまも、御使いに仕えられた主イエスは救い主であると確信して、天においては、御使いとともに神様を賛美する方となってください。

天国の入場券

井上^る路^か加

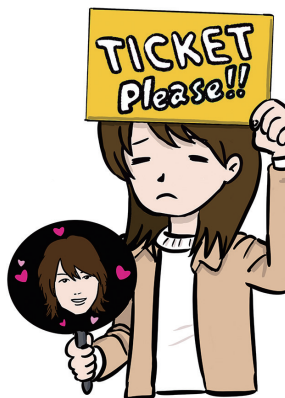
以前、観光で大阪に行った時のことです。その日は大阪城を見に行く途中だったのですが、たまたま近くの会場で人気アイドルグループのコンサートがあったようで、駅の中はお揃いのシャツやグッズを手にした女性客で混雑しておりました。会場周辺はまさにお祭り騒ぎといった具合に大変にぎわっておりました。

そんな中、よく見てみると喜んでいるお客さんばかりでなく、中には涙を流して「チケットを譲ってください」というプラカードを掲げている方までお

りました。おそらくは大人気ゆえにチケットが手に入らず、せめてもの望みをかけて会場近くまできたのでしょう。

当然皆さんコンサートを心待ちにして来ているわけですから譲ってくれる人はいないでしょう。せっかく近くまで来ても、チケットが無ければコンサートをみるばかりか、会場に入ることさえ出来ません。そう思うと、少し切ない気持ちになりました。

さて、社会ではこのように、特定の場所に入場す



るために定められた資格が必要になることが多々あります。コンサートや遊園地に行くにも事前にチケットを購入しなければならぬのはもちろんのこと、今日では仕事場に行くにも社員証が無ければ職場に入ることすら出来ないという人もいるのではないでしょうか。これらはすなわち、その人がそこに立ち入る資格を持っているかどうかをチェックしているわけです。

実は天国という場所にも、このチェックが入るのです。

「私は、死んだ人々が大きい者も小さい者も御座の前に立っているのを見た。数々の書物が開かれた。書物がもう一つ開かれたが、それはいのちの書であった。」(ヨハネの黙示録20章12節)

どうやら天国には「いのちの書」という書物があり、その書物に名前が記されているかどうか一人ひとりチェックされるようです。まさに天国への入場

確認のようですね。

さて、聖書のお話をする際、多くの場合「聖書に書いてある神様は一部の人しか救わない、なんて心の狭い神様だ！」と憤る人もいるのではないのでしょうか。

しかし、これは大きな誤解です。神様は実は人間を愛しており、みんな救われてほしいと願われているのです。

そして先ほど入場券のたとえを出しましたが、実はこの入場券は一部の人だけでなく、すべての人に用意されているのです。

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」(ヨハネの福音書3章16節)

聖書によると、最初の人間アダムとエバが神様の命令に背き、その結果、彼らの子孫であるすべての

人間に罪が入ってしまった、とあります。私たちはその罪のゆえに、天国に入る資格を持たない者となっていました。

しかし神様は、ご自分を裏切った私たちのために、ご自身の御子であるイエス・キリストをこの世に遣わされました。そしてそのいのちを犠牲にして、全人類が支払うべき罪の代価をすべて肩代わりしてくださったのです！

つまりそれは、神様が、天国に入るための入場券を、全人類分を用意してくださったということなのです。ですからそれは、人気のあるコンサートチケットのように抽選制ではなく、すべての人が受け取ることが出来るのです。

「ちやうど一人の違反によってすべての人が不義に定められたのと同様に、一人の義の行為（キリストの十字架）によってすべての人が義と認められ、いのちを与えられます。」

（ローマ人への手紙5章18節）

ただ、その入場券の受け取り期間は、今、生きている間だけです。この期間に入場券を手に入れなければ、けっして天国に入ることは出来ません。その受け取り方法とは、主イエス・キリストを自分自身の救い主として信じることです。

そしてその入場券は、コロナワクチンの接種券と同様、すべての人に用意されているわけですが、それを受け取るかどうかは、私たち自身が決めなければなりません。イエス・キリストを救い主として信じないということは、せっかく用意していただいた



入場券を、いらないと拒否してしまうことなのです。

前述のように「何で全員天国に入れてくれないんだ！」と言う人々もありますが、これを人間社会のなかで例えるならば、配布された入場券を捨てておきながら、後になって「自分も入れろ！」などと騒ぐ人のようなものです。このような人がいればたちまち警備員につまみ出されてしまうでしょう。

ただつまみ出されてしまうだけならばまだよいかもしれません。先にも触れたとおり、私たちはやがて一人ひとりチェックが行われます。その時、いのちの書に名前が載っていない者は火の池に投げ込まれ、永遠に苦しみ続けることとなります。

「いのちの書に記されていない者はみな、火の池に投げ込まれた。」（ヨハネの黙示録20章15節）

「そこには獣も偽預言者もいる。彼らは昼も夜も、世々限りなく苦しみを受ける。」（同10節）

ですから私たちクリスチャンは、神様が用意してくださったこの入場券をすべての人に受け取ること

をお勧めしております。

そしてそれを受け取ることは、神様と和解することであり、神様ご自身が何よりその和解を望んでおられるのです。

「こういうわけで、神が私たちを通して勧めておられるのですから、私たちはキリストに代わる使節なのです。私たちはキリストに代わって願います。神と和解させていただきなさい。神は、罪を知らない方を私たちのために罪とされました。それは、私たちがこの方にあつて神の義となるためです。」

（コリント人への手紙第二・5章20、21節）

どうか今、生きている間に主イエス・キリストを信じて、永遠の火の池ではなく、天国へ入る方となりますよう、お勧めいたします。

みちしるべ11月号 第900号

令和5年11月1日（毎月1回1日）発行

発行所 伝道出版社
〒183-0056 東京都府中市寿町 2-8-9
TEL 042-366-7760
FAX 042-366-7790

編集人 伝道出版社 編集部
<https://dendoshuppan.shop-pro.jp/>
印刷所 株式会社 共同印刷所

昭和43年1月10日第3種郵便物認可

令和5年11月1日（毎月1回1日）発行

みちしるべ11月号 第900号

伝道出版社
〒183-0056 東京都府中市寿町2-8-9



定価1部50円＋税
送料63円
振替00140-9-27336

Column



ウンベラータ



「ウンベラータ」とは、我が家にある観葉植物の名前（種類）です。ぐにゃりと曲がった幹とハート型の葉が何とも可愛らしくて、大切に育てています。

ある日、道端でウンベラータによく似た大きな雑草を見つけ、驚いて調べると、「アカメガシワ」という植物でした。雑草とは「望まれていないところに生えているすべての草」と定義されています。似ていても、生えている場所や少しの形の違いで随分と扱われ方が、またその価値が違うのだなあとしみじみ思いました。

私たち自身について考えてみるとどうでしょうか。私たちは神にとって、そんな「望まれていない」「名も知られていない」、雑草のような存在ではありません。神は私たちに対して、次のように語っておられます。

「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。」（イザヤ書 43 章 4 節）

かつてイエス・キリストは、神のみこころに従って私たちを罪のさばきから救うため、十字架にかかってくださいました。—それは、まるで望まれない雑草が引き抜かれて処分されるように。

『神の御子を身代わりとするほどに』これが神が決めたあなたの価値です。
(好本 豊)

なお、くわしく聖書について知るために、下記の所へぜひおいでください。